

平成29年度 地域ケアプラザ事業報告書

1 施設名

葛が谷地域ケアプラザ

2 事業計画

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのようにおこなっていくのか、具体的に記載してください。

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との共通部分（区と協議の上、策定して下さい。）

1 全事業共通

地域の現状と課題について

葛が谷地域ケアプラザは都田・荏田南・渋沢・ふれあいの丘・柚木荏田南の5地区が担当エリアです。駅周辺を中心にマンションや商業施設の建設が進む一方、昔からの農業専用地域を持つ地域もあります。

都筑区は高齢化率が低く、センター南駅や都筑ふれあいの丘駅を中心に子育て世帯が多く住んでいます。一方で、子どもからの呼び寄せで移り住んだ高齢者も多く、居住年数が比較的短い方が多いのも特徴です。エリア内の要支援認定を受ける高齢者が急増している現状です。

<課題>

- ①地区社協や民生委員、自治会町内会を中心として関係の構築及び地域資源の整備を住民主体で取り組むための支援が必要とされています。
- ②ケアプラザの機能 PR の強化と、誰もが相談・支援を受けられる仕組みづくりが求められています。
- ③ボランティア活動への参加促進と、活動者の連携を深める事が求められています。

(1)相談（高齢者・こども・障害者分野等の情報提供）

地域のサロンに積極的に参加し、その中での相談に対応しました。地域の認知症カフェには5部門で当番を決めて必ず参加し、その際に受けた質問を適切な機関に繋げました。

- ・個々の相談については高齢者の相談に限らず、他部門や他の機関とも連携して障害にかかわる相談等にも幅広く対応しました。
- ・個別の課題を集め、地域課題へ展開していくアプローチとしてケア会議を実施し、また区や区社協と協働して支え合いマップ作成支援を行いました。

(2)各事業の連携

1) 5部門連携

ケアプラザの5部門（地域活動交流、生活支援体制整備事業、地域包括支援センター、通所介護事業、居宅介護支援事業）においては、各種会議等で指示や情報を伝達し、地域支援施設としての意識統一を図るほか、情報共有シートなどを用いて速やかに情報を共有しました。

2) 5職種連携

ケアプラザの5職種（地域活動交流コーディネーターと生活支援コーディネーター、地域包括支援センター社会福祉士・主任ケアマネジャー・保健師）については、各職種が専門性を活かしながら連携して業務にあたり、月1回の定例会議等で共有・検討を行うほか、毎朝の10分ミーティングで新しい情報を常に共有しました。また、地域支援については、5職種全員が主体的に行うため地区担当制を継続しました。

(3)職員体制・育成、公正・中立性の確保

- ① 法人として作成している「人材育成計画」及び職種ごとの「求められる職員像」を活用しながら人事考課制度にもとづく年度当初の目標設定、中間期及び期末期の振り返り面談を実施しました。
- ② 新人常勤職員にはベテラン職員の中から、業務の中での指導やフォローを行いました。
- ③ 事業所は担当者に対し、専門職として常に利用者の立場で、誠意をもってその職務を遂行するよう指導するとともに、必要な対応を行いました。
- ④ 関係行政機関、地域の保健・医療・福祉サービス、ボランティア団体等との綿密な連携を図り、多様な事業者から総合的かつ効率的にサービスが提供されるように調整し、常にご利用者の立場で公正中立な立場で業務を遂行しました。

(4)地域福祉保健のネットワーク構築

地域活動交流コーディネーター及び地域包括支援センター、生活支援コーディネーターの職員による地区担当制により、各地区の事業への協力・支援・参加を通じて地域関係団体との関係づくりをすすめます。また、参加するだけでなく地区情報を共有できるよう、月1回定例的に3職種会議、5職種会議の開催し、地域アセスメント及び地区支援記録の作成を継続しました。

【都田】

- ・ 地区社協役員会への参加（年6回）
- ・ 地区民生委員児童委員協議会定例会参加（月1回）
- ・ 第3期地区別計画推進の支援
 - ・ 健康づくり分科会
 - ・ 見守り支え合い分科会
 - ・ こども分科会
- ・ 地区社協事業の支援
- ・ 地区社協子育てサロンの運営支援（年6回および運営者会議年2回）
- ・ 地区社協民児協部会「ほのぼの健康教室」（年6回バスハイク含む）
- ・ 老人会、町内会等への出前講座（年4回）
- ・ 大倉山陽光ハイツ体操サロンの支援（月1回）
- ・ 地区保健活動推進員ふれあい会
 - くずがやまつりと共催し、ウォーキングを開催
- ・ 平台町内会での子育てサロン立上げおよび開催支援（年3回）

- ・ 仲町台認知症予防カフェの支援（月 1 回）
- ・ 都田地区民児協とケアプラザの職員交流会（1 回）

【渋沢】

- ・ 地区社協定例会の支援（月 1 回）
- ・ 地区社協事業の支援
- ・ 昔遊びと芋煮会への参加（年 1 回）
- ・ 都筑荏田地区民児協定例会の支援（月 1 回）
- ・ 第 3 期地区別計画推進の支援
- ・ 赤ちゃん会の支援（月 1 回）
- ・ 災害時要援護者支援「つづきそなえ」の支援
- ・ そなえ委員会の開催支援（年 3 回）
- ・ 井戸端クラブへの参加
- ・ 渋沢ふれあい会への参加
- ・ 松寿会（老人会）への参加

【荏田南】

- ・ 地区社協定例会（月 1 回）
- ・ 地区社協事業の支援
- ・ 荏田南福祉フォーラムの開催支援（年 1 回）
- ・ 地区社協広報紙発行支援（年 4 回）
- ・ 都筑荏田地区民児協定例会出席（月 1 回）
- ・ 第 3 期地区別計画推進の支援
- ・ 団体運営支援
- ・ 荏田南支えあい(EMS)にこにこサロン（月 1 回）
- ・ かばさんの絵画教室（認知症・障がい支援）（月 2 回）
- ・ ほほえみ交流カフェ（月 1 回）
（包括による総合相談受付）
- ・ 災害時要援護者支援「つづきそなえ」の支援
- ・ 元気づくりステーションの支援

【ふれあいの丘】

- ・ ふれあいの丘地区連合町内／
地区社協会議参加（月 1 回）
- ・ 第 3 期地区別計画推進の支援
- ・ 「互助会（ちょボラ）」の立上げに向けたプロジェクト開催支援（年 7 回）
- ・ 川和地区民児協定例会（月 1 回）
- ・ 災害時要援護者支援「つづきそなえ」支援
- ・ 地区社協事業の支援
- ・ ふれあいサロン（カラオケ・麻雀）の支援（年 23 回）
- ・ 子育てセミナーの支援（年 3 回）
- ・ 歌声サロン、卓球大会、研修バスハイク（各年 1 回）
- ・ 人材育成研修の開催支援（年 1 回）
（地域支えあいネットワーク事業の開催）

【柚木荏田南】

- ・ 地区社協役員会の支援（月 1 回）
- ・ 地区社協定例会の支援（月 1 回）
- ・ 地区社協事業の支援
- ・ ささえ合いマップによる個別ニーズの把握事業の支援（更新作業含む）
- ・ 都筑荏田地区民児協定例会の支援（月 1 回）
- ・ 第 3 期地区別計画推進の支援
- ・ 子育てサロン「にっこり組」の立ち上げ・開催支援

(5) 区行政との協働

「住民に身近な福祉の拠点として、福祉保健活動の振興と福祉保健サービスの提供により、地域福祉を総合的に推進していく」という地域ケアプラザの役割を認識し、地域福祉保健計画をはじめとする区政運営方針に位置づけられた施策・事業を区役所と協働していきました。

1) 第3期都筑区地域福祉保健計画の推進

2) 区の事業（元気づくりステーション、ひとり暮らし高齢者地域で見守り推進事業、災害時要援護者事業つづきそなえ等）の協働実施しております。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

<高齢者支援事業>

① ふれあいポッチャ（年11回 のべ160人）

編み物サロン（年12回 のべ73人）

② はまゆうへの協力（第1・第3水曜日）

配食の新規利用や変更、終了などの窓口となり団体運営に協力しました。

<障害児者支援事業>

① くずがやゆめひろば 年2回開催

7月 参加者58名（懇談会参加の保護者含む）ボランティア70名

3月 参加者52名（懇談会参加の保護者含む）ボランティア52名

エリア内の全5地区の実行委員と一緒にこない、継続的に地域密着を進めている。

また、懇談会では、2回とも民生委員に加え当事者の保護者と地区社協が参加し

地域と障がい児の親とのつながりづくりを実施。また、懇談会及び勉強会を開催し

障がい児の見守りについて地域で考えるきっかけとなりました。

② ハッピーアワー&ハッピーバンド

（年18回述べ196名）

定例会のほか、スキップ広場、都筑センターで発表会に参加しました。

③ 片手でクッキング♪（6月・12月開催）

CMとCoの交流会から生まれた、中途障がい片マヒの当事者による中途障がい片マ

ヒの方対象の料理教室を開催しました。当事者同士の繋がりづくりや情報交換の機

会にもなりました。新たなボランティアの発掘につながりました。

<子育て支援事業>

① 子育てサロン「きらきら」（第3金曜日）

（年12回 のべ203名）

5、9、11月はふれあいの丘地区社協と共催、6月と10月はあつまれ都筑のニューフ

ェイス、みどり保育園と共催、2月はみどり保育園と共催

② ママと赤ちゃんのための健康講座（6回／年）

都筑区役所共催。

<その他自主事業>

① 「くずがや祭り2017」の開催

11月12日 780名来所

地区社協による出店や体操指導者講習会の修了者による高齢者向け健康体操、

ヘルスメイトによる食育のコーナーなど、地域の協力をいただき実施することが

できました。

② 健康啓発講座

都田地区社協交流会での小松菜ジュース試飲会

くずがや祭りでの都筑野菜を使用した豚汁出店（89杯）

介護予防体操体験会の実施

<その他>

① よこはま寄付本の実施（寄付冊数のべ2895冊）

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- ① ボランティア交流会
2月4日開催 参加者 10団体 31名
- ② 施設利用団体交流会
12月10日開催 参加者 団体Ⅰ：18団体 団体Ⅱ：11団体 43名
- ③ 貸出用車いすの整備等を実施
- ④ 施設利用実績（4月～3月）
利用件数 1,245件
延べ利用件数 2005件
利用人数 15113名

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

- ① ボランティアグループ「ほほえみの会」
ちょっとした家事援助など
年間依頼件数 76件、延べ活動人数 109人
- ② あいちゃんボランティア登録受付
(個人0件)
- ③ くずがやゆめひろばに近隣中高生参加
(7月：中学生13人、高校生2人 3月：中学生5人、高校生4人)
くずがや祭りに近隣中学生参加 4人
- ④ よこはまシニアボランティア登録研修会開催
12月10日開催 12名参加
登録者の中から、デイサービスや自主事業、ほほえみの会などでボランティアとして活動につながっています。
- ⑤ よこはまシニアボランティアポイント活動件数
デイ及び自主事業：221名、配食：502名)
- ⑥ 施設利用登録団体Ⅱの中で、ボランティア活動を希望する団体に、デイサービス自主事業、くずがや祭りなどでのボランティアをコーディネート

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

〈情報収集〉

- ① 各種情報の把握のために、地域会合（地区社協定例会、地福推進会議等）に参加
- ② 区や区社協と地区支援ミーティング等において共有

〈情報提供〉

- ① 広報誌「ふれあいくん」A3両面印刷 年6回 各回1500部発行
- ② イベントや講座のポスター等を掲示
くずがや祭りのポスター掲示
地域交流事業（一部包括の事業も掲載）月間予定表の掲示
- ③ 自主事業・共催事業のチラシ等を自治会にて回覧依頼。
子育て情報や障がい関係情報を関係機関で共有・周知（赤ちゃん会、保育園、ポポラ、訓練会等）

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

- 1) 地区ごとに目標設定を行い、地域の課題解決に向けて区、区社協と共通し共通認識のもと、地域支援に取り組みました。
- 2) 講座の実施を通して、新しいコミュニティの形成やボランティア活動の活性化を図りました。
 - ①スマートフォン活用術講座（全5回、延べ80人参加）
講座終了後自主サークルとして活動を継続。
 - ②食べて動いて健康づくり～TAKE10!～講座
（全5回中1回が天候不良により中止、延べ54人参加）
区内他CP、地区センター、区社協と共催により実施。食や運動の知識を増やすとともに、区内の食をツールとした団体同士の横のつながりを持つきっかけとなりました。
- 3) 地域アセスメントから見えてきた地域課題の解決に向け、包括と連携した講座を実施しました。
 - ①65歳からの若返り体操からだ年齢マイナス10歳をめざそう！
（全6回、延べ128人参加）
- 4) ふれあいの丘地区における「ほっとボランティア」立上げに向け、アンケートの実施や会則の作成について支援を行いました。
- 5) 市営住宅の民生委員から寄せられた相談をもとに包括と訪問。身近な場所での集いの機会の必要性をを民生委員等と確認し、サロン実施を行いました。
- 6) シニア☆スター養成講座の開催に協力し、ケアプラザエリアからは4名が修了し、その後新しい活動の立ち上げや、活動の充実につなげました。
- 7) 生活支援ボランティアグループ「ほほえみの会」のボランティアと要支援者のコーディネートを行いました。
（依頼件数76件、延べ活動人数109人）

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

- 1) 各職種がそれぞれの視点で把握・分析した地域状況について共有することで、地域課題の視覚化を図りました。また、月1回の5職種会議において、地域状況の共有を行いました。
- 2) 総合相談等の状況をケアプラザで一体的に分析するために、総合相談をマッピングし日頃からの相談状況を見える化し、日常的に分析し地域支援につなげています。
- 3) 高齢化率や年齢別人口推移を各町丁目ごとにグラフ化し地域住民と共有。視覚化することで地域状況の共有を行いました。
- 4) 次年度のインフォーマルサービスリスト（地域活動リスト）の更新に向けて、項目の整理や地域活動情報の整理を行いました。

(3) 連携・協議の場

- 1) 「10年後を見据えて今できること」をテーマに、統計データや個別課題をもとに包括レベル地域ケア会議兼協議体を実施しました。地域課題の共有や具体的な動きにつながるきっかけづくりを行いました。

(4)より広域の地域課題の解決に向けた取組

- 1) ケアプラザエリア内で把握された地域課題を1層COや他ケアプラザの2層COと共有することで、区域の地域課題を整理するとともにその解決に向けて区、区社協と協働して取り組みました。

4 地域包括支援センター運営 事業

(1) 総合相談 支援業務

①地域におけるネットワークの構築

- 1) 毎月、圏域カンファレンスとして区地区担当職員と包括職員・生活支援及び地域交流職員が事業や地域情報等の情報交換や事例検討を行いました。
- 2) 包括支援センターの役割の周知及び連携が取れるよう、民児協の定例会・認知症対応型グループホームや小規模多機能型居宅介護事業所、地域密着型通所介護事業所の運営推進委員会に参加しました。
- 3) ケアネットつづきの世話人と協働して研修や委員会を開催して介護保険サービス事業者・医療機関との連携を図りました。
- 4) 地域のサロンや老人クラブ・地区社協の事業等に参加して、相談しやすい関係を作りました。
- 5) 個別支援ケースから地域包括ケアシステムの構築に繋がるよう、区・介護保険事業者・医療機関・区社協・地域住民等の参加による地域ケア会議を開催しました。

②実態把握

- 1) 各地区民生委員・児童委員をはじめ、地域で活動する方から情報が得られるような関係を構築し、地域の現状を把握しました。
- 2) 介護者のつどいを年10回開催し、初めて介護する方に必要な知識を身につける場と介護者同士のつながりや情報交換の場づくりを通して介護者の実態把握を行いました。
- 3) エリア内の高齢者専用住宅の生活相談や高齢者の多く住む集合住宅に対し、情報交換・連携強化を図りました。
- 4) 総合相談をマッピングし相談傾向を可視化することで地域特性の把握に努めました。

③総合相談支援

- 1) 相談に対し、迅速で的確な対応に努めました。
- 2) 複雑かつ対応困難なケースについては区役所や他機関と調整し、問題解決に受け連携を図りました。
- 3) 相談者のニーズに添えるよう、インフォーマル情報をはじめとしたエリア内の情報を提供できるように情報整備を継続しました。
- 4) 総合相談のあったケースの迅速な情報共有を目的に、包括ミニミーティングを毎朝行いました。

〈相談受付件数〉 1, 174件

◇電話相談 777件

- ◇窓口相談 242件
- ◇訪問相談 155件

(2) 権利擁護 業務

①成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

- 1) 成年後見制度の普及啓発を目的とし、区内の包括支援センター共催で専門職を講師に招き制度の活用について周知活動を行いました。
- 2) 消費者被害の増大が危惧される中、「消費者教育推進法」が施行されたことで、「消費者保護」から「消費者の自立」への意識転換が必要となってきています。未然に防ぐため消費者問題の情報を地域のサロンや民児協で共有しました。

②高齢者虐待 への対応

- 1) 区内の包括支援センター、区社協、区役所等関連機関と連携し、高齢者虐待への理解を深める勉強会を行いました。また、事業を通して専門的な視点をもって虐待の早期発見・早期対応に努めました。
- 2) 相談対応を行うなかで虐待が疑われる場合は、速やかに区役所へ報告し連携して対応しました。
- 3) 介護者のつどいを通して高齢者虐待予防の促進を図りました。

③認知症

- 1) 町内会及び老人クラブ等、地域からの依頼により「認知症予防の出前講座」を開催しました。
- 2) 小学生を対象に認知症サポーター養成講座を実施しました
- 3) 認知症サポート連絡会担当包括として連絡会に参加し関係構築に努めました。
- 4) 認知症ミニフォーラムを開催し、地域の方へ認知症の普及啓発を行いました。
- 5) 区内の認知症予防カフェに参加し相談してもらえる関係性を構築することに努めました。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援 業務

地域住民、関係機関等との連携推進支援

- ①地域の福祉関係者とのネットワーク構築のためエリア内のグループホーム及び、小規模多機能居宅介護施設、地域密着型通所介護施設等の運営推進会議に積極的に参加しました。
- ②毎月区地区担当職員と包括職員・生活支援及び地域交流職員が事業や地域情報等の情報交換や事例検討を行いました。
- ③包括支援センターの役割が周知でき連携が取れるよう、民児協の定例会・認知症対応型グループホームや小規模多機能型居宅介護事業の運営推進委員会に参加しました。
- ④ケアネットつづきの世話役と協働して、研修や委員会を開催して介護保険サービス事業者・医療機関との連携を図りました。
- ⑤地域のサロンや老人クラブ・地区社協の事業等に参加して、相談しやすい関係を作りました。
- ⑥個別支援ケースから地域包括ケアシステムの構築に繋がるよう、区・介護保険事業者・医療機関・区社協・地域住民等の参加による地域ケア会議を開催しました。

⑦相談ケースから地域分析を行うため、所内で担当地区のマッピングを実施しました。

②医療・介護の連携推進支援

①介護保険サービス事業所連絡会「ケアネットつづき」に参加。今年度もケアマネジャー部会の窓口担当として区内5包括主任ケアマネジャー共同で打ち合わせや事業に参加し、後方支援として関わりました。

②3包括共催で情報交換会を年3回行いました。

・研修「呼吸器について」

・「消防署とケアマネジャーの交流会」

・研修「医学の基礎知識」

③エリア内の居宅介護支援事業者を定期的に訪問し、ケアマネジャーとの情報交換を行い、相互に相談しやすい信頼関係の構築を目指します。

④5包括共催で病院関係者とケアマネジャーの情報交換会を実施しました。(12月)

③ケアマネジャー支援

①電話・窓口による相談に随時受付するとともに、事業や研修の周知をしました。

②支援困難事例等への支援・助言・担当者会議の出席や同行訪問を行いました。

毎月1回地域包括職員と区職員とのカンファレンス時にケアマネジャーより支援が困難な相談を受けケース検討を実施し、適時同行訪問等を行いました。

③区内5包括主任ケアマネジャー、区共催で新任・就労予定ケアマネジャー向けの研修を実施しました(8月・2月)

④区内5包括共催事業としてケアマネジャーと病院医療連携室との情報交換会を実施する予定としていました。(年1回)

⑤ケアマネジャーが地域包括ケアシステムの構築に向け、プランニングに地域の社会資源を取り入れ、利用者が担い手とも成り得る社会を意識できるように、生活支援コーディネーターとの交流会を開催しました。(3月)

⑥居宅介護支援事業者への委託のケースは、今後も可能な限りサービス担当者会議に包括職員が参加し、介護予防プランの作成支援を行いました。

⑦インフォーマルリストの更新について、生活支援コーディネーターと協同して、様式、印刷方法の見直しを行いました。

⑧5包括共催で、区内の居宅介護支援事業所に所属する主任ケアマネジャーの情報交換、スキルアップの場として都筑区主任ケアマネジャー連絡会の開催支援を行いました。連絡会での情報交換、コーチング研修実施しました。(年2回)

⑨5包括共催で介護予防従事者研修を実施しました。(年1回)

⑩ケアプラザ職員と民生委員児童委員との交流会を開催し、ケアプラザの役割や職種について周知するとともに横の繋がりを構築しました。

⑪5職種で協働し、葛が谷地域ケアプラザ周辺の社会資源一覧を更新しケアマネジャーへ配布しました。

⑫ケアマネサロンを隔月で実施。普段関わる機会が少ない関係機関とケアマネジャーとの交流の場を作り、また勉強会の機会を設けました。(全6回)

⑬区内5包括、5職種、区社協共催でケアマネジャーとケアプラザ、区社協のCO.との情報交換会を実施しました。(3月)

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

- ① 総合相談や地域活動から5職種でアセスメントを実施し、包括単位で地域ケア会議を開催しました。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

- ① プランにインフォーマルサービスを位置づけ、本人、関係者が地域との連携していけるよう、地域資源の確認を行い、積極的に参加、連携を図りました。
- ② 各地区民生委員児童委員協議会の定例会、地域の老人クラブ・サロン等へ参加し、地域情報の収集に当たるとともに、関係構築に努めました。
- ③ 担当エリア内の地域向けに、介護保険制度の現状についての正しい理解について普及啓発を行いました。
- ④ 包括・予防支援のミーティングなどで情報交換や困難事例の検討を行い、情報共有を図りました。
- ⑤ 年間を通して、職員の研修の参加を積極的に行い、職員の資質向上を図りました。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

地域の高齢者・中高年の方々を対象に、介護予防普及啓発のための事業を開催しました。

- ① 『体操指導☆講習会』
(4月16日～6月27日 全6回)
地域での介護予防体操の普及のため指導者(ボランティア)の育成を目指しました。
- ② 『イケてるおじ様になる講座』
(5月～1月 毎月1回程度 全10回)
高齢者の男性を対象に介護予防について学び、生きがいづくりや引きこもり防止を目的に開催しました。
- ③ 「65歳からの若返り体操からだ年齢マイナス10歳をめざそう！」
(秋頃～全6回)【再掲】
地域資源が少ない地域でその地域にあるグループホームと共催で行う予定です。高齢者を対象に、正しい運動法と正しいストレッチの方法を指導。体操が継続できるように自主グループ化を目指しました。
- ④ 老人会、高齢者サロンやケアプラザから遠く高齢化が進んでいるような地域で介護予防についての講座を開催しました。
(口腔・栄養・運動等)
- ⑤ 『健康カラオケ講座』
(秋頃～全4回)

大きな声を出すことや腹式呼吸について学び、口腔機能の向上等の介護予防をめざし講座を開催しました。

- ⑥ 「CPとは、介護保険とは、介護予防とは」など包括支援センターの普及啓発のための出前講座の実施しました。(年4回程度)
- ⑦ 高齢者サロンや老人会へ体操指導者の紹介を行いました。
- ⑧ 自主化した体操教室などの活動支援を行いました。

その他

--

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

施設の適正な管理について

ア 施設の維持管理について

地域ケアプラザが誰にでも安心して利用できるよう「指定管理者における基本協定書」に基づき、施設の適正な維持管理を行いました。

- ①日々の巡視点検を行うとともに整理整頓に努めます。
- ②利用者の皆さまからのご意見やアンケートを取り入れました。
- ③法令に基づく定期点検については併設施設である横浜市北部地域療育センターとの管理に関する覚書に基づいて実施しました。
- ④施設・設備の破損や故障に対しては、速やかに修理等の対応を行いました。

イ 効率的な運営への取組について

指定管理施設として経費の削減、資源の有効活用を心がけました。

- ①共有部分の保守業務は、北部地域療育センターと一括で契約しました。
- ②消耗品購入等は、法人一括契約等により経費を抑制しました。
- ③業務内容と経費等を総合的に鑑みながら必要に応じて業務の外注化をしました。

ウ 苦情受付体制について

「横浜市社会福祉協議会・苦情解決規則」「苦情相談マニュアル」に基づき苦情受付の体制を整えています。

- ①苦情受付責任者および実務責任者を置き、館内に掲示しています。
- ②ヒアリハット事例や苦情があった場合は、担当者・実務責任者（所長）・所管部長・苦情解決推進チーム・総括責任者という体制を徹底しました。
- ③館内に「ご意見箱」を設置するとともに、「利用者アンケート」を実施し、苦情に限らず利用者からの意見を広く求めサービスの向上につなげました。

エ 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

<防犯>

- ①鍵による施錠ならびに警備会社のセキュリティにより入退館時刻を記録しました。
- ②閉館前にはチェックシートを用いて施錠ならびに消灯の確認を行いました。

<防災>

- ①災害対応マニュアルを年1回更新し、職員の共有を徹底しました。
- ②速やかな連絡体制をとるため施設内、法人内ならびに区役所等関係機関との緊急連絡網を作成し共有しました。
- ③横浜市北部地域療育センターと合同で消防避難訓練を年2回実施しました。
- ④特別避難所として、防災備蓄物資の管理を適正に行いました。

オ 事故防止への取組について

- ①毎日の始業ミーティングにおいて、職員間で事故防止の意識づけを行いました。
- ②事故に至らなかった事例についても「ヒヤリはっと」報告書を作成し、職員会議等において共有しました。

カ 個人情報保護の体制及び取組について

個人情報保護に関する方針・規程および取扱基準に則り、利用者の個人情報保護に努めました。

- ①個人情報取扱業務概要説明書を置き、個人情報の取得の際には、利用目的を伝え、適正な範囲・方法で取得しました。
- ②職員一人ひとりが個人情報取扱に関する意識を常にもち個人情報の保護に努めるよう、職員全員に研修を行います。ボランティアや実習生等にも個人情報保護を徹底しました。
- ③個人情報に関する書類のFAX禁止、USBの取扱原則禁止、郵送時のダブルチェック、ノートパソコンは鍵のかかる書架に保管、などのルールを全員で遵守します。
- ④業務上やむを得ず個人情報を持ち出す場合は、持ち出し状況を記録し、置き忘れや盗難防止等の措置を講じました。

キ 情報公開への取組について

- ① 法人の運営状況については理事会・評議員会等の議事録を法人ホームページに掲載するほか、施設利用者に見ていただけるよう事業計画書・事業報告書等を閲覧用に設置しました。
- ② 施設の運営状況については、年2回の葛が谷地域ケアプラザ運営協議会において、委員の方々へ説明を行いました。
法人の情報公開規程・規則に沿って迅速、かつ適切に取り扱います。(案件なし)
- ③ 保有している文書(電磁的記録物を含む)を対象とします。ただし、文書に個人のプライバシーや法令等の規則で公に開示できないものを明確にします。
- ④ 公開に際しては個人の不利益にならないようにしました。
- ⑤ 施設概要やサービス内容について、常に最新の情報が提供できるよう決算書、個人情報取扱業務概要説明書、その他情報公開用資料を設置しました。

ク 人権啓発への取組について

- ① 基本的な姿勢として、全職員が日常業務において利用者の置かれている環境や現状を受け止めるとともに、十分な配慮を行えるよう努めました。
- ② 職員全体を対象として、人権研修及びマナー研修を開催しました。

ケ 環境等への配慮及び取組について

- ① ヨコハマ3R夢推進のため、分別を徹底しゴミの少量化に努めました。外部に出す書類以外は裏紙を使用するなどの工夫を行いました。ペットボトルキャップやプリンタートナーの回収ボックスを設置し、利用者とともにリサイクルの意識向上を図りました。
- ② 地球温暖化対策のため施設運営の省力化を勧めました。
「季節に合うライフスタイル」に関するポスターを掲示しました。また、空調温度の基本設定を夏は28℃、冬は19℃としました。但し、施設利用者や来館者の年齢や体調等に合わせ、臨機応変に温度設定を調整しました。

介護保険事業

● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

- ・ 管理者(主任ケアマネジャー) 1人 (常勤兼務)
- ・ 保健師 1人 (常勤兼務)
- ・ 社会福祉士 2人 (常勤兼務)
- ・ 介護支援専門員 2人 (非常勤)
- ・ 社会福祉士 1人 (非常勤)

《目標》

要支援1・2と認定された高齢者に対し、介護予防の視点から利用者やその家族のニーズを捉え、要介護状態になることを予防し、自立した生活が維持できるよう介護予防プランを作成しました。

- ①プラン作成においては、利用者の主体性を尊重しサービス利用後の生活がイメージできるような具体的な目標設定を行いました。
- ②委託契約を結んでいる居宅支援事業者のプラン立案等を積極的に支援します。
- ③地域包括ケアシステムの構築を視野に、利用者が介護保険サービスを卒業し地域の担い手として活躍していけることを目標としました。
- ④介護予防支援・包括支援センター職員が月に1回の会議を行い、利用者の情報共有をして、担当者が課題を抱え込むことのないようチームでの課題解決に取り組みました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

なし

《その他（特徴的な取組、PR等）》

生活課題を本人だけの問題とするのではなく、地域の課題ととらえ、部門を超えて連携、共同し、課題解決に取り組みました。

《利用者目標》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
294	291	294	301	303	290
10月	11月	12月	1月	2月	3月
285	286	294	287	294	299

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

- ・ 管理者 1人（常勤兼務）
- ・ 介護支援専門員 7人（常勤1人、非常勤6人＜予防兼務2人含む＞）

《目標》

- ・ 質の高いケアマネジメントを提供しました。
地域のサービス情報を収集し、主任ケアマネジャーと連携しながら、本人・家族の希望に沿ったケアプランを作成しました。
利用者の意思を尊重し、心身の状況や環境等に応じて可能な限り住み慣れた地域で自立した日常生活が送れることを目標に居宅サービス計画を作成しました。
- ・ 法令遵守を基本にサービス提供しました。
介護保険法・行政指導内容を共有し、定期的に相互点検を実施しました。
個人情報保護については、契約時に個人情報使用範囲を確認し、送付時・持ち出し時のダブルチェックとその記録を徹底しました。
- ・ 介護支援専門員研修・外部、内部機関等による関係研修へ参加し、ケアマネジャーの資質向上を図りました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

利用者負担なし

《その他（特徴的な取組、PR等）》

地域ケアプラザの居宅支援事業部門として、地域における支援困難なケース等、積極的に地域包括支援センターをはじめとした行政、医療、後見人など関係機関と連携し対応しました。
地域包括システムの構築を視野に入れ、個別ケースから把握される地域の身近な課題について施設内で共有し、他部門との連携を図りました。

《利用者件数》

※単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
111	109	113	114	122	121
10月	11月	12月	1月	2月	3月
124	127	127	130	133	135

● 通所介護事業

《提供するサービス内容》

利用者が自立した日常生活を営むことおよび利用者の家族の介護負担を軽減することを目標に、通所介護計画に沿って次のサービスを提供しました。

- ①生活指導（相談援助等）②機能訓練（日常動作訓練）③口腔機能向上サービス
④介護サービス⑤健康状態の確認⑥送迎⑦給食⑧入浴

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

① 1割負担分		②入浴加算	54円/回
（要介護1）	614円/回	③口腔機能向上加算	161円/回
（要介護2）	725円/回	④個別機能訓練加算Ⅱ	60円/回
（要介護3）	837円/回	⑤中重度者々々体制加算	49円/回
（要介護4）	948円/回	⑥体制加算Ⅱ	7円/回
（要介護5）	1,060円/回	⑦食費負担	800円/回
		⑧特別な行事	実費相当
		⑨介護職員処遇改善加算Ⅰ	
		介護報酬の総単位数に1000分の59を乗じる	

《事業実施日数》 週7日

《提供時間》 10:15 ~ 15:20

《職員体制》

- ・ 管理者 1人（常勤）
- ・ 生活相談員 4人（常勤・非常勤）
- ・ 看護師（機能訓練指導員兼務） 7人（非常勤）
- ・ 介護職員 15人（非常勤）
- ・ 送迎運転員 4人（非常勤）
- ・ 調理員 4人（委託職員）

《目標》

- ①法令遵守を基本とし、利用者のニーズを受け止め個別性を大切にされた通所介護計画を作成しました。
- ②社会福祉協議会が運営する通所介護として、地域の要介護者やその家族の要望に応えられるよう質の高いサービスの提供に努めました。
- ③介護保険法を正しく理解し、根拠をもって業務にあたるよう所内研修を実施し、資質の向上に努めました。
- ④個人情報漏洩事故のないよう、職員一人ひとりが意識をもって取扱います。
- ⑤利用者の情報、介助方法・援助方法の共有と職種間の申し送りの徹底および業務の一般化を図りました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ①職員同士の連携やチームケアを意識した取り組みとして、ケアマネジャーとの連携を強化しました。
- ②マニュアルをもとに全職員がスキルチェックを行い、職員の育成や研修計画に活かして、個々の職員のスキルアップを図りました。
- ③個別性を尊重し、少人数によるレクリエーションを実施しました。

《利用者（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
459	528	528	537	526	503
10月	11月	12月	1月	2月	3月
502	484	466	457	431	515

● 介護予防通所介護・第1号通所事業

《提供するサービス内容》

利用者が自立した生活を営むために、運動器機能等の実施や身体的精神的レベルの維持向上を目標に、介護予防通所介護計画に沿って、次のサービスを提供しました。

- ①生活指導（相談援助等）②機能訓練（日常動作訓練）③介護サービス
④介護サービス⑤健康状態の確認⑥送迎⑦給食⑧入浴

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- ①1割負担分（要支援1）1,766円/月（要支援2）3,621円/月
②口腔機能向上加算 161円/月
③運動器機能向上訓練 242円/月
④体制加算Ⅱ（要支援1）26円/月（要支援2）52円/月
⑤食費負担800円/回
⑥介護職員処遇改善加算Ⅰ 介護報酬の総単位数に1000分の59を乗じる

《事業実施日数》 週7日

《提供時間》 10:15～15:20

《職員体制》

- ・管理者 1人（常勤）
- ・生活相談員 4人（常勤・非常勤）
- ・看護師（機能訓練指導員兼務） 7人（非常勤）
- ・介護職員 15人（非常勤）
- ・送迎運転員 4人（非常勤）
- ・調理員 4人（委託職員）

《目標》

- ①法令遵守を基本とし、利用者のニーズを受け止め個別性を大切にした通所介護計画を作成しました。
- ②社会福祉協議会が運営する通所介護として、地域の要介護者やその家族の要望に応えられるよう質の高いサービスの提供に努めました。
- ③介護保険法を正しく理解し、根拠をもって業務にあたるよう所内研修を実施し、資質の向上に努めました。
- ④個人情報漏洩事故のないよう、職員一人ひとりが意識をもって取扱しました。
- ⑤利用者の情報、介助方法・援助方法の共有と職種間の申し送りの徹底および業務の一般化を図りました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ①職員同士の連携やチームケアを意識した取り組みとして、ケアマネジャーとの連携を強化しました。
- ②マニュアルをもとに全職員がスキルチェックを行い、職員の育成や研修計画に活かして、個々の職員のスキルアップを図りました。
- ③個別性を尊重し、少人数によるレクリエーションを実施しました。

《利用者（契約者数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
22	20	19	16	18	16
10月	11月	12月	1月	2月	3月
15	16	14	15	16	14

平成29年度 自主事業報告書

横浜市葛が谷地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
片手でクッキング♪	中途障がい者片マヒの当事者が講師となって、同じ中途障がい者向けの料理教室を開催しました。地域の仲間づくりや外出の機会を作るとともに、片手でも料理ができるヒントやアイデアを習いました。	6月、12月 (年2回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
施設利用団体交流会	葛が谷地域ケアプラザに活動している施設利用団体の交流会を実施することで、日ごろの活動を知る機会や活動団体と活動者をつなぐことを目的とし、また利用されている方々とケアプラザとの意見交換も実施し、ニーズ把握やネットワーク構築等も目的として開催しました。今年度は、希望団体に、団体の活動内容を披露していただきました。	12月(年1回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ふれあいボッチャ	身体に負担の少ないボッチャゲームの実施を通じて、介護予防や仲間作りを目的としています。包括で実施した「体操の先生になる講座」を受講した体操講師に、毎回、ボッチャの前に準備運動を兼ねたストレッチをしてもらいます。	毎月第2水曜日・ (年11回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
編み物サロン	毎月第4水曜13:30~15:00 編み物 引きこもりがちな高齢者の居場所づくり、仲間づくりを目的として開催しました。シニアボランティアポイントのボランティアさんもお茶の準備等で活動しています。	毎月第4水曜日・ (年12回)

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
くずがやゆめひろば	地域住民、当事者を中心とした実行委員会による障害児の余暇支援事業と障害児の保護者と地域関係団体との懇談会を行い、障害時世帯と地域のつながりづくりを行いました。	7月、3月 (年4回 うち2回は顔合わせ)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ハッピーアワー	障がい者余暇支援。毎月主に第1・3金曜夜間開催し、作業所終了後の居場所づくりを目的に実施しました。 第1金曜17:00～は集合後弁当を購入し、食事後はカラオケ、トランプ等で交流しました。 第3金曜18:30～はバンド活動。年3回程度の発表会に出演し、一般の方へ啓発を図りました。 定例会以外にボーリングやバンド発表会などに参加しました。施設利用団体のボランティアとしての協力もあります。	主に毎月第1・3金曜日 (年18回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子育てサロンきらきら	近隣の母親同士が顔見知りになり、育児に関する情報交換など育児ストレス軽減を目的としています。年間3回みどり保育園協力のもと、育児相談も行いました。また、年間2回、子育て支援センターポポラと「あつまれ都筑のニューフェイス」を開催しました。 そのほかに、年間3回ふれあいの丘地区社協と共催でストレッチ体操やフラダンス、カラーセラピーなどのイベントも開催しました。	毎月第3金曜日 (年12回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ママと赤ちゃんのための健康講座	区役所との共催事業として、子育て中の方々のお友達作りや赤ちゃん和妈妈のための健康づくりを目的とした育児支援事業として実施。離乳食講座と赤ちゃん和妈妈と一緒に楽しくからだを動かす内容で実施しました。	5、10、2月 (年6回)

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
くずがやまつり	都筑ふれあいの丘祭り（都筑センター等共催）と同日に、葛が谷地域ケアプラザにて地域団体やボランティア団体に 出店していただきお祭りを開催しました。	11月（年1回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
日々の暮らしに 役立つ講座	主に男性の方を対象に、暮らしに役立つ学びを通じて、仲間づくりと自分たちの住んでいる「地域」を知ってもらい、地域活動のきっかけづくりの場として開催しました。	7、9月（年2回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ポールウォーキング体験講座	地域の繋がりづくり、介護予防を目的に、都筑ポールウォーキング振興会と共催で、主にシニア向けのポールウォーキング体験会を開催しました。午前中はレベル別にポールウォーキングを体験し、午後は健康講座を開催しました。	11月（年1回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
生涯骨太クッキング	ヘルスマイト荏田南渋沢地区と共催で、成人から高齢者向けの、骨に関する食事と栄養、介護予防を目的開催しました。骨を丈夫にするための食事の試食と、保健師による生活習慣病、低栄養やロコモについての講話、体操指導者によるバランス能力や下肢筋肉をつける体操の指導もありました。	10月（年1回）

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
よこはまシニアボランティアポイント登録研修会	よこはまシニアボランティアポイントの登録研修会を開催しました。テキストに沿ってシニアボランティアポイントの仕組みとボランティアの心構えなどの研修を行い、活動の場を紹介しました。	12月（年1回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
シニア楽農園収穫祭	活動団体であるシニア楽農園が収穫した都筑野菜を活用したボランティア活動を行いたいという希望から、収穫祭として地元野菜の良さ、健康啓発、ボランティア活動の促進を行いました。	11月（年1回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア感謝会	地域ケアプラザに関係するボランティア（団体・個人）の集まる機会を作り、日頃の活動を称え、情報交換や交流を図りました。	2月（年1回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
健康啓発講座	地域の団体と共催し、一般区民向け健康啓発講座を開催。都筑野菜を使用した小松菜ジュースレシピ紹介などを行いました。（11月はくずがや祭りの中で開催）	7月・11月（年2回）

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護者のつどい	これから介護をしようとしている方、介護を始めたばかりの方が介護保険や利用できる行政制度、施設、地域の社会資源等の講座を開催しました。また、経験のある介護者との懇談会をもちリラックスした雰囲気の中でピアカウンセリングを行い、介護の不安・負担を軽減する場の提供をしました。	8月・12月を除く毎月第4火曜日・年10回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
権利擁護啓発講座・相談会	複雑な権利擁護の制度について弁護士の先生（11月）や行政書士の先生（9月）にわかりやすくお話ししていただき、もしもの時に備えてもらうきっかけ作りをするとともに、普及・啓発を図りました。	9月・11月（年2回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
食べて動いて健康づくり～TAKE10!～講座	区内他CP、地区センター、区社協と共催により実施。食や運動の知識を増やすとともに、区内の食をツールとした団体同士の横のつながりを持つきっかけとなりました。	2/5、2/19、3/5、3/19（4回）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
スマートフォン活用術講座	高齢者の5年後の在宅生活を見据え、SNSを通じた見守りやコミュニケーションツールとしてスマートフォンが活用できるようになること、またボランティアグループの機能強化を図りました。	9/27、10/11、10/25、11/8、11/22（5回）

平成29年度 自主事業収支報告書

葛が谷地域ケアプラザ

施設名

事業名	①主な対象者	自主事業決算額							
	②参加人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
片手でクッキング♪	障がい者	6087	地活	1587	4500	0	0	6087	0
	9名		包括						
	500円		生活						
施設利用団体交流会	施設利用団体	5400	地活	5400	0	0	0	5400	0
	43名		包括						
	0		生活						
ふれあいポッチャ	高齢者	0	地活	0	0	0	0	0	0
	115名		包括						
	0		生活						
編み物サロン	一般	11500	地活	11500	0	0	11500	0	0
	73名		包括						
	0		生活						
くずがやゆめひろば	障がい児と保護者	0	地活	0	0	0	0	0	0
	110名		包括						
	7月1000円、3月1500円		生活						
ハッピーアワー	障がい者	62842	地活	31042	31800	0	4000	44650	14192
	196名		包括						
	企画により		生活						
子育てサロンきらきら	未就園児の親子	0	地活	0	0	0	0	0	0
	203名		包括						
	0		生活						
ママと赤ちゃんのための健康講座	一般	0	地活	0	0	0	0	0	0
	218名		包括						
	0		生活						
くずがやまつり	一般	168933	地活	155033	0	13900	5000	22849	141084
	780名		包括						
	0		生活						
日々の暮らしに役立つ講座	一般	0	地活	0	0	0	0	0	0
	34名		包括						
	0		生活						
ポールウォーキング体験会	一般	0	地活	0	0	0	0	0	0
	25名		包括						
	0		生活						
生涯骨太クッキング	一般	0	地活	0	0	0	0	0	0
	16名		包括						
	0		生活						
よこはまシニアボランティアポイント登録研修会	65歳以上	0	地活	0	0	0	0	0	0
	12名		包括						
	0		生活						
シニア楽農園収穫祭	一般	0	地活	0	0	0	0	0	0
	19名		包括						
	0		生活						
ボランティア感謝会	ボランティア	42,550	地活		0	42550	0	42550	0
	31名		包括						
	0		生活						
健康啓発講座	一般	42,550	地活		0	42550	0	42550	0
	31名		包括						
	0		生活						
食べて動いて健康づくり～TAKE10!～講座	食をツールとしたボランティア活動者	11,245	地活				10800		445
	延べ54名		包括						
	500円(会計担当CPへの収入)		生活	11245					
スマートフォン活用術講座	一般	84,000	地活	20000	8000		20000	8000	0
	延べ104人		包括	20000					
	1000円		生活	20000					